

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	越谷市立大袋保育所	種別：	保育所
代表者氏名：	長谷川 敬子	定員(利用人数)：	125 名
所在地：	〒 343-0033 埼玉県越谷市恩間150番地3	TEL	048-976-2852

③評価実施期間

令和 4年 7月27日(契約日) ~ 令和 5年 3月15日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○子どもたちがクッキングや野菜栽培等を通して、食への興味を持てる取り組みをしている
市の栄養士が子どもたちが食への関心を持てるように食育の年間計画を作成している。年長児が栄養士による栄養指導を受け、みんなで協力してカレーを作り味わったり、3歳以上児がオクラ・枝豆・なす・きゅうり・さつま芋等の野菜の苗を植え、大切に育てた野菜を収穫して給食室で調理をしてもらったりしている。衛生に気を付けながら、食材を洗ったり皮をむいたりして調理の手伝いをしており、芋煮会では詳細な手順を話し合い、3歳児は白菜としめじをちぎる、4歳児は大根の皮むき、5歳児はさつま芋を切って鍋に入れるなど、役割分担を決めて出来上がった給食をみんなで一緒に食することで食への楽しい体験をしている。これらの取り組みは保育所たよりや壁新聞等で保護者へ発信し、食育ボードに食育活動の写真も掲示している。さらに、庭で餅つきをしてつき立ての餅を味見したり(幼児組)、クッキーづくりでは年長児が生地を3~5歳児全員で成型して、おやつに食べるなど、様々な取り組みをしている。

○ 保護者に対する丁寧な対応を心がけ、信頼関係を構築している

利用者調査には、子どもをよく見てくれている、担任以外でもよく見て、声をかけてくれる、相談しやすい、アットホームで安心感を感じる、所内調理の給食が美味しいなどの声が寄せられ、大多数の保護者が保育所に対して信頼を寄せ、好意的に捉えている。これらは、日々職員が一体となって、保護者に声をかけ、コミュニケーションを取ることを重視した関係性の構築や相談しやすい雰囲気作りの積み重ねが、保育所に対する理解度を深め、保護者の満足度の高さに繋がっている。

○所内研修や会議を通し保育観を共有し、所長のリーダーシップのもと保育に取り組んでいる職員の人数も多く、年代層もあり、また経験の差もある中で、定期的な会議(職員会議・所内会議・乳児・幼児部会・フリー保育士会議・時間外保育員会議)を行い、意思疎通を図り、保育観を共有できるようにしている。所内研修の機会も設け、なぜなぜ分析のネーミングを保育カンファレンスと変更し、日常の保育の悩みや疑問などを出し合う場にして、保育の質の向上につなげたいと考えている。会議で出された課題や改善提案等を議題にして改善に取り組んでいる。例えば、延長保育でのDVD鑑賞について減らすための検討をしたり、与薬の忘れがないようにダブルチェックの札を薬箱につけるなどの改善をしている。所長はこれらの改善が必要な課題に対して、押し付けにならないように提案をしながら、意見を吸い上げるなどして、保育の質の向上のためにリーダーシップを発揮している。

◇特にコメントを要する点

○子どもの主体的な遊びが展開できるよう、保育環境のさらなる工夫を期待したい
 保育環境は月案会議で子どもの様子の報告があるので、遊びの工夫が出来るように考えたり、遊具を年齢に合わせて提供できるようにしている。利用者や職員への調査で、玩具の数や種類の少ない事への声も聞かれている。0歳児から3歳児は保育室が2クラスの構成になっているので、年齢やクラスに応じた絵本や玩具の数、種類などの工夫や検討を進めることが必要と思われる。また、こどもが主体的に遊び展開することができるように、好きな玩具を自由に選んで遊ぶことができるよう収納の工夫や提供の仕方などの遊べる環境づくりを、職員間で話し合うことにより、遊びが深まり発展していくことを期待したい。

○保護者に向けての保育情報発信の工夫は見られるが、日常の保育の様子も伝えられるよう更なる工夫に期待したい

年度初めに保護者に年間行事計画を配布し1年間の行事内容が記載されており、分かりやすくなっている。クラス懇談会や個人面談は年1回取り組んでいる。さらに、保育士体験の代替えとして保育見学を実施し、日常の子どもの様子を見る機会を設けている。が、感染症予防対策として時間を短縮して実施などで時間的に十分とは言えない。0～2歳児と幼児組として子どもたちの様子を壁新聞にして年2回掲示したり、食育の取り組みを保育所たよりやクラスの前に写真にコメントを入れて掲示したりの工夫は見られるものの、写真入りの掲示を増やしたり、クラスたよりの内容の検討や発行回数を増やすなど、クラスの日常の様子がさらに伝えられることに期待をする。

○職員への連絡事項や会議で検討したことが伝わりやすく情報の共通理解ができる更なる検討を期待したい

職員人数が多いこともあり、一堂に会しての会議の開催も難しい状況もある。様々な検討や実施をして、例えば、回覧をするなどで情報の伝達をしているが途中で止まってしまったり、会議の時間を変更して出席者を増やすようにしたり、回覧は読めなかったら次に回して溜めない工夫をしているが、理解へのばらつきや伝達されていないなどの状況もある。日々の情報伝達の朝の打ち合わせの記録は1日1ページにするなど読みやすい工夫や周知の必要な会議は乳児主幹や幼児主幹を中心に開催回数を増やすなど、文字を通してだけではない理解ができる機会や参加する機会があるなどの検討が必要と思われる。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けて感じたことは、大変さもありますが、保育所や保育の質の向上に繋がるとしても意義のあるものだという事です。

職員全員で協力しながら資料作成の準備を行った事で、職員一人一人が、自分達の保育や保育所をよりよいものにしようという意識がしっかりと持て、保育を振り返るよいきっかけとなったと思います。また保護者や職員へのアンケート結果を受け、どう改善してくとよいのかを職員間で話し合う事が出来ました。

そして、受審結果で職員の頑張りを評価して頂けた事が、職員の更なる意欲に繋がりました。受審した事で明確になった課題を改善し、よりよい保育所運営や保育を行えるよう努力、工夫をしていきたいと思ひます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり